

地域や社会をよくする

校長 山田浩之

毎年、六年生を対象に全国学力学習状況調査が実施されます。今年も四月にありました。ここでは、学力を調べるテストと同時に、子どもたちの生活や考えていることなどを問う調査があります。その調査で毎年数値が気になっている質問があります。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」

既に地域や社会のためにしてみたい具体的なことがある子どもは、当然、当てはまるに○を付けます。しかし、具体的な「してみたいこと」が無くても、「いつかは地域や社会をよくするために何かしてみたい」という思いがあれば、これもまた○をつけることができます。つまり、地域や社会への参画の意欲を尋ねている問いとも言えます。

新潟小学校の子どもは、42.3%が「当てはまる」を選んでいました。全国平均が34%弱ですから、多少上回っています。上回ってはいますが、もっと、高くなってほしいと願ってしまいませんか、将来、実際に何かするようになってほしいと願ってしまいます。

しかし、そのように思いながらも一方で、自分を戒める自分がいることに気が付きます。

「子どもに期待するのはよいが、子

どもは、未来の地域や社会をよくする手段ではないぞ」という思いです。むしろ、子どもが将来幸せになることが目的で、そのために地域や社会とのかわりや参画が手段になるということが望ましいと、考えたいのです。地域や社会に貢献する喜びを感じることや、自らの仕事等が社会を支えているという意味を感じることが大切なのではないかということです。そして、それらが集積した結果として地域や社会がよくなっていったらほしいと、願うのです。

では、その基盤を整えるために小学校がしなければならぬことは、何か。一言で言えば地域への愛着を育て、社会への信頼感を持たせることです。自分にとって大切だと感じるものは、誰だって、よりよくしていきたいと思わずです。具体的な教育活動においては、地域や社会で生活や仕事を営んでいる人々のことを知ること、かわること、楽しそうだなと思うこと、素敵だなと思うこと、尊敬すること、営みの意味を感じることなどを促していきます。新潟小学校では、低学年の生活科から六年生の総合的な学習まで一貫して地域や社会とかわわっています。